

下 商 物 語

創部百周年を迎えた吹奏楽部のはなし

本校教諭 林 俊行

明治時代の後期に市内の若者有志が集まって赤間関音楽隊が編成され、いろんな地域の行事で活躍をしていた記録が残っており、その中心となる隊員は本校の生徒であったようです。名池山校舎（明治三十五年～大正十五年頃）での運動会では、競技が楽隊の演奏の下に行われており、まさにそれは本校生徒を中心とした有志の集まりであったようです。

そのような中で本校吹奏楽部の前身「音楽部」は、大正八年四月に生徒八名と顧問三名でプラスバンド編成を中心としてスタートしました。この頃は外国人教師（カーン・ウォーン先生）を中心に昭和の初めの頃まで活動をしていました。ちなみに、この頃の部員に、あの有名な金子みすゞの実弟で上山正祐氏（大正十二年卒、日本演劇協会元常任理事・作家・

脚本家・演出家・児童劇団「若草」創立者）もおられました。以降、音楽部は、プラスバンド、ハーモニカバンド、マンドリンクラブ、ラッパ隊などに形を変えながら活動しましたが、ついに戦時下は活動を中止されてしまいました。終戦後の昭和二十一年四月には、音楽部が復活しましたが、コーラスを中心とした部であったようです。昭和二十六年四月には、ハーモニカバンドを編成して活躍していましたが、現在の吹奏楽部として本格的に始動したのは、昭和三十六年二月に硬式野球部が春の甲子園大会に出場を決め、応援の核としてプラスバンドが、部員二十名顧問二名で編成されたことによります。その後、昭和三十八年春・夏、秋での選抜・選手権・山口団体で本校硬式野球部が優勝、準優勝、優勝という快挙を成し遂



初代の部員 (卒業アルバムより)

げた際の応援の中核をなすものでした。近年の各種大会では、全日本吹奏楽コンクール山口県大会金賞十回受賞（昭和六十二年～平成十三年まで連続十五回出場）、中国地区大会（九回（金賞三回受賞）、日（日）に卒業有志の方々が、シームールパレスで、記念式典、祝賀会、記念誌の発行・配布をされ、市民会館で開催された記念定期演奏会で、『海峡』永遠（とわ）に輝く海』の制作などが発表



このたびの創部百周年を祝って、昨年の十月十三日（土）の同窓会総会の前に下商吹奏楽部同窓会設立総会（写真参照）で多くの関係者が出席され、創立百周年記念事業が承認され、今年の四月二十八日（日）に卒業有志の方々が、シームールパレスで、記念式典、祝賀会、記念誌の発行・配布をされ、市民会館で開催された記念定期演奏会で、『海峡』永遠（とわ）に輝く海』の制作などが発表

され、全国から多くの関係者が集まり大盛況でした。参考までに、部活動でのOB会組織がしっかりしてこのような行事などの支援をされている本校の部活動は、硬式野球部やバドミントン部・陸上競技部・サッカー部などがあります。吹奏楽部の卒業生は、合計約千名（戦前約百名・戦後約千名）を数える大所帯となり現在も各界で活躍されています。